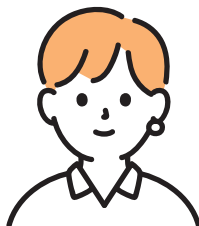
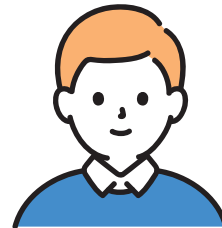
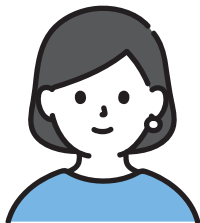




kono shunkan wo issho ni wara ou

6-dim+ ロクディム 活動資料

学校公演やワークショップを  
依頼してくれた先生や保護者の想いと  
実施した感想



## 実施事例：宇佐市立北部中学校（大分）2023年11月に実施

### 担当：T先生へのインタビュー

#### 対象者

- ・ワークショップ：各学年 [1年・2年・3年]（1時限・50分で実施）
- ・学校公演：全校生徒とその保護者（1時限・50分で実施）

#### ロクディムの学校公演を選んだ理由は？

ロクディムさんの公演には多面的・多角的な教育的価値があります。

一般的な芸術鑑賞の時間ももちろん意義深いですが、ロクディムさんの公演及びワークショップは子どもや教職員にとって何重にもわたって学びや効果を得られるものとなっていると思います。まず、ワークショップについては文科省が求めている「主体的で対話的な深い学び」そのものを実現することができます。まさにこれからの時代を生きる上で求められている資質能力を身に付ける上で、うってつけの手段です。様々なワークを通して、コミュニケーション能力の育成はもちろんのこと、自分自身を深く見つめ、そのありのままを認めること（自己肯定力）や、他者との感じ方・考え方の違いを「面白いもの」として価値づける力（多様な価値観の受容）など、それらを仲間とともに笑いながら身に付けることができるということが、ロクディムさんのワークショップの大きな魅力だと考えます。

また、公演は一方的な鑑賞ではなく、「少しだけ自分も参加できる」というところが他の芸術鑑賞とは大きく違います。事前にペーパーズというお題が書かれた紙に自分の思いついた言葉を書き、それが舞台上にばら撒かれ、シーンの途中で台詞として使われます。「自分の言葉が演者の方々に影響を与える」というドキドキワクワク感は、「自分のほんの少しの行動が現実を変えていくことができるんだ」という実感に繋がることもあります。この「少しだけ」という関わりは、人前に立つことが苦手な子どもたちにとっても心理的負担感が低く、それでいて表現活動に参加できるというメリットもあります。

そして、何よりとにかく面白いのです!!子どもも大人（保護者等）もみんな「この瞬間を一緒に笑おう」という空間が、温かくて幸せで平和に満ちています。この感覚を経験することは、全国のどんな学校においても絶対的な大きな価値があると断言できます。

さらに、ロクディムさんのワークショップや公演は、うまく表現ができない子どもたちに絶対無理をさせない優しさや愛に溢れていて、教職員として学ばされることが多々あります。子どもたちの気持ちを置き去りにして、これまでの規律や外からの目を優先してしまう己の弱さと向き合う機会を与えてもらっています。

児童生徒、教職員にとって非常に意義の大きな公演及びワークショップだと考えます。

## 実施事例：宇佐市立北部中学校（大分）2023年11月に実施 担当：T先生へのインタビュー

### 公演を実施する上でのテーマや目的はどんなものか？

今回は、PTAの研修部が「人権公演会」として主催しました。ねらいとしては

- ① 自分のありのままを認める。
- ② 他者との違いを認める。

ということ身に付けさせたいと考えました。

人権教育とロクディムワークショップは重なるところが多くあります。

「自分のありのまま認める」というのは、困りやつらさを抱えさせられた子ども、マイノリティの立場にある子どもたちにとってとても難しいことです。しかし、いじめや差別を乗り越えるためには絶対必要な力です。それをロクディムさんのワークでは、意外と簡単に「自分のことを認めてもいいんだ」と思わせてもらえます。そして、他者との「違い」が偏見や差別を生むという構造に対して、「違いこそが面白い」と思えるワークに富んでいます。それらのワークショップを踏まえて公演を観ることで、自然と前向きな気持ちが芽生え、自分や他者の良さに気づき、世の中の温かさを知ることができます。そのようなことをテーマに公演していただきました。

### 実際に実施してみてもの反応や感想

生徒の感想（一部抜粋）

- ・みんなをゆるして、心を通わすことをしたら、あんなにもすごいものができて、みんなをゆるすことが大事だということを知り、とても驚いたし面白かった。
- ・人を否定せずに生きていこうと思った。
- ・人のことをずっと否定しては何も始まらないけど、同じ内容でも肯定していたら話がすすんでいたの、同じ内容でも否定・肯定で違っていくのが面白かった。時には否定も大事だと思った。
- ・一歩ずつ一歩ずつ相手との距離をなくして行って、今まで話を聞いたことのない人とも関わっていきたいです。とっても楽しい時間でした。
- ・どんな時も相手の気持ちを考え、自分の意見も尊重しつつ、いい空気感に持ち込もうと努力したいと思った。
- ・私は人と話すのがとても好きですが、素直な気持ちで話をできる人が少ないし、相手のことを考えることを優先してしまいます。種崎先生の演技と、話をつなげるお芝居を見て、相手と共に自分のことも大切にしようと思いました。
- ・公演を通して、「考えて発信、行動することの大切さ」を感じた。

その他の感想は [ロクディム活動資料\_生徒の感想\_2023\_宇佐市北部中.pdf] にまとめています。ぜひご覧ください。

## 実施事例：別府市立中部中学校（大分）2023年11月に実施

### 担当：Y先生へのインタビュー

#### 対象者

- ・ワークショップ：各学年 [1年・2年・3年]（1時限・50分で実施）
- ・学校公演：中学生1～3年生 + 教員 + 保護者 + 地域の方々（1時限・50分で実施）

#### ロクディムの学校公演を選んだ理由は？

前任校でロクディムのワークショップを体験して、生徒へのメッセージ性、取り組みやすさ、そして何より楽しさ、が今まで受けたワークショップと段違いで素晴らしく、現在の学校の生徒にも是非体験してほしいと思ったから。

#### 公演のテーマ、目的

「ロクディムと作る 温泉、笑顔、地域の輪」というテーマで、午前中各学年に分かれてのワークショップ。午後から全校と地域の方を招いての即興劇公演を行いました。また、午前中の学年ごとのワークショップは学年ごとの特色に合わせたテーマを設定して、自分の気持ちを表現することの楽しさ。友人を大切と思える集団づくり。言葉の重みや大切さを考える。学年テーマをもとにワークショップをしていただきました。

#### 実際に実施してみでの反応や感想

生徒の感想の中には

「・・・思っていた100倍面白くて、おなかが痛くなるくらい笑いました。あの子はあの食べ物が好きなんだと、新しく知ることができました。タケちゃん（渡さん）が「みんなそれぞれ違う」「間違いはない」と言ったとき、生きていて1番心に響きました。本当にロクディムの皆さんありがとうございました。これからもみんなに夢と笑顔を届けてください。応援しています。」

と、あるようにどの生徒にも響く言葉がありました。また、地域の方や保護者の方からは、生徒達とともに楽しみながらワークショップができて、みんなが笑顔になれる公演を見ることができてとても温かい時間だったと大好評でした。

## 実施事例：熊本市立武蔵中学校（熊本）2024年2月に実施

### 担当：Mさんのインタビュー（PTA・保護者）

#### 対象者

- ・学校公演：中学1年生・2年生＋教員＋保護者＋地域の方々（1時限・50分で実施）
- ・特別講演：中学3年生（お昼休みに実施）

#### ロクディムの学校公演を選んだ理由はなんですか？

以前より、ロクディムさんの数人の方々の活動を拝見させて頂いた時に、たくさん子どもたちに、いつか見せたいな～と思っていたのが1番の理由です。また、ロクディムさんの活動のテーマとしている"この瞬間を一緒に笑おう"という点に、大変共感をしました。最近の子どもたちは、スマホ利用などにより、情報過多な中、それぞれが、個々の世界に目を向けているように思えます。そんな子どもたちに、近くにいる仲間と、同じ時間を心から感じ楽しんで欲しいと思い公演をお願いしました。

#### 公演を実施する上でのテーマや目的はどんなものでしたか？

自分の感情を表現する！言葉にする！  
コミュニケーション能力を高めよう！というのが1番のテーマです

#### 実際に実施してみでの反応や感想をお聞かせください

公演中、子どもたちが、誰一人下を向かず、この瞬間を感じ楽しんでいた姿が印象に残りました！  
スマホ画面からではなく、Liveでの展開、そこから生まれる笑顔は、心から、この瞬間を楽しんでいたように見えて、とても嬉しかったです。

しかし、今回は、時間の関係で、公演のみとなった為、自分が経験するWSの時間を体験してもらえなかった事が残念です！見るだけでなく、体験をすれば、また良い経験になっただろうなあと思いました。

今から、こんな企画を子どもたち向けに考える主催者の皆さんには、時間が許すなら、ぜひ、体験型WSと公演をセットで企画をオススメしたいな～とも思う1人です！

とにかく、心からみんなで、一緒に笑うってサイコー!!  
そんな時間を、ありがとうございました！